

モーセ

聖徒たちと歩む聖書 ~27~
モーセ その1

「ない者を用いる
あるという神」

出1~4章 モーセの召命・動き出す主の約束

【今日のアウトライン】

0. まえおき

- ①今、起きていること
- ②この学びで目指すもの
- ③律法(トーラー)とは？

I. イスラエルの苦難

II. モーセの誕生・前半生

III. モーセの召命

IV. まとめと適用

神の御名を味わい知ろう

モーセの使命、私たちの使命



0. まえおき

①今、起きていること



【歴史に学ぶ今】

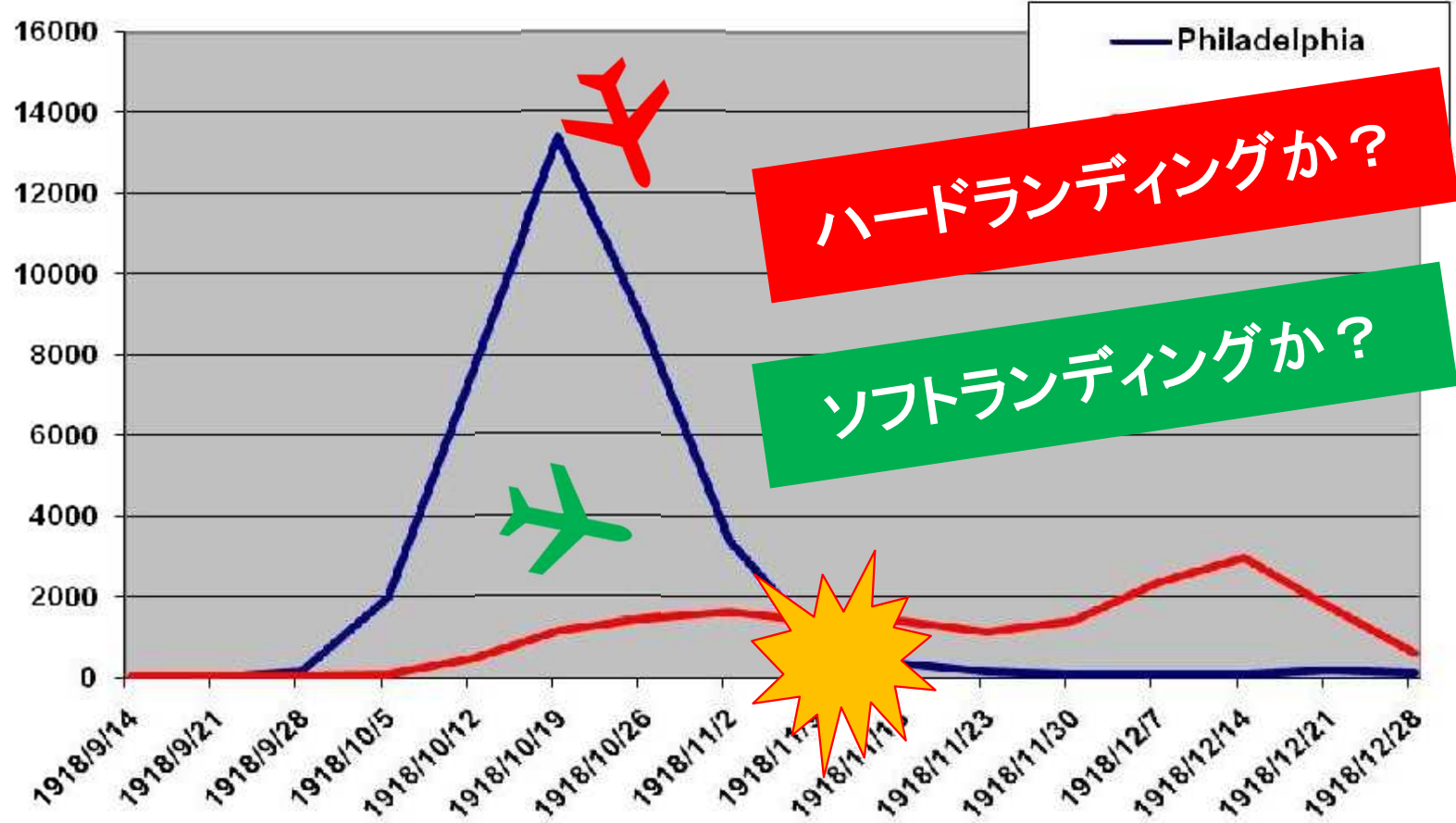
■ 無策だった
フィラデルフィア

■ 集会禁止を徹底の
セントルイス

人口比では、
8倍の差が!!

★いずれにせよ
感染拡大は
避けられない!!

1918年のスペインインフルエンザにおける
フィラデルフィアとセントルイス（米国）の死亡率比較



ハードランディングか？

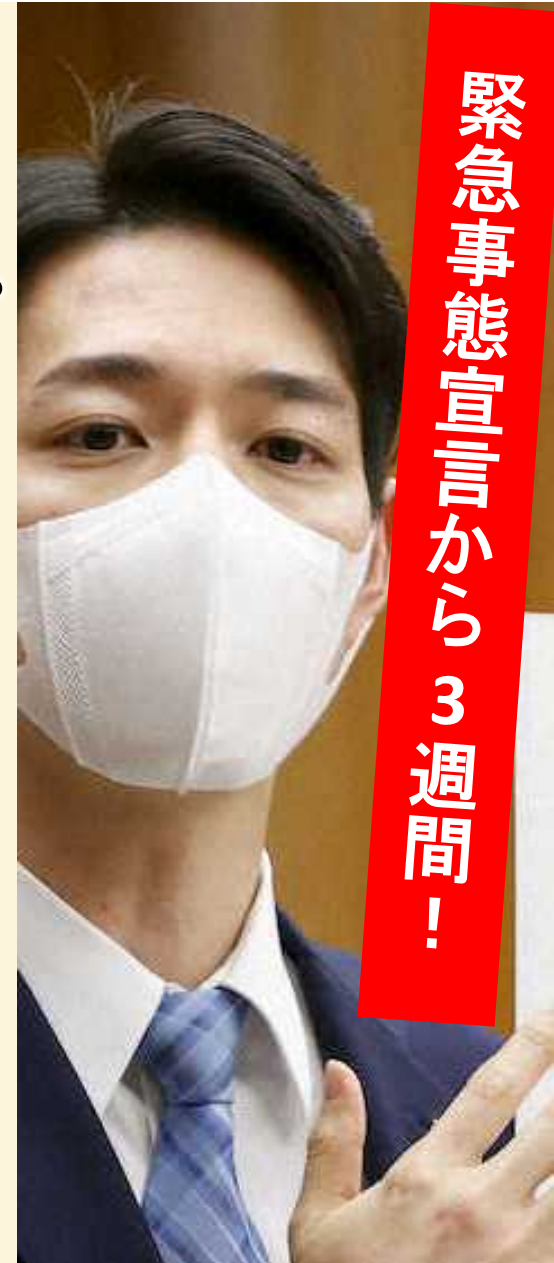
ソフトランディングか？



終息までの時間は、ソフトな方がずっと長い!!

【北海道の現状を確認しよう!!】

- 北海道の感染拡大速度は、かなり抑えられている。
一ヶ月ぶりに感染者のない日も。十勝は、一人のまま。
- 多くの道民が、真面目に律儀に、外出を控えた結果。
...4年前の台風災害、昨年の大地震、大停電。
人々の心に、災厄への備えができていたのだろう。
- 北海道が収束したとしても、本当の終息はまだまだ先。
世界全体が終息するまで、ウイルスとの戦いは続く。
- 警戒心を怠らず、感染拡大をゆるやかに押さえつつ、
日々の生活も、教会の交わりも保っていく道が必要。



緊急事態宣言から3週間!

【今、問われている教会のありよう】

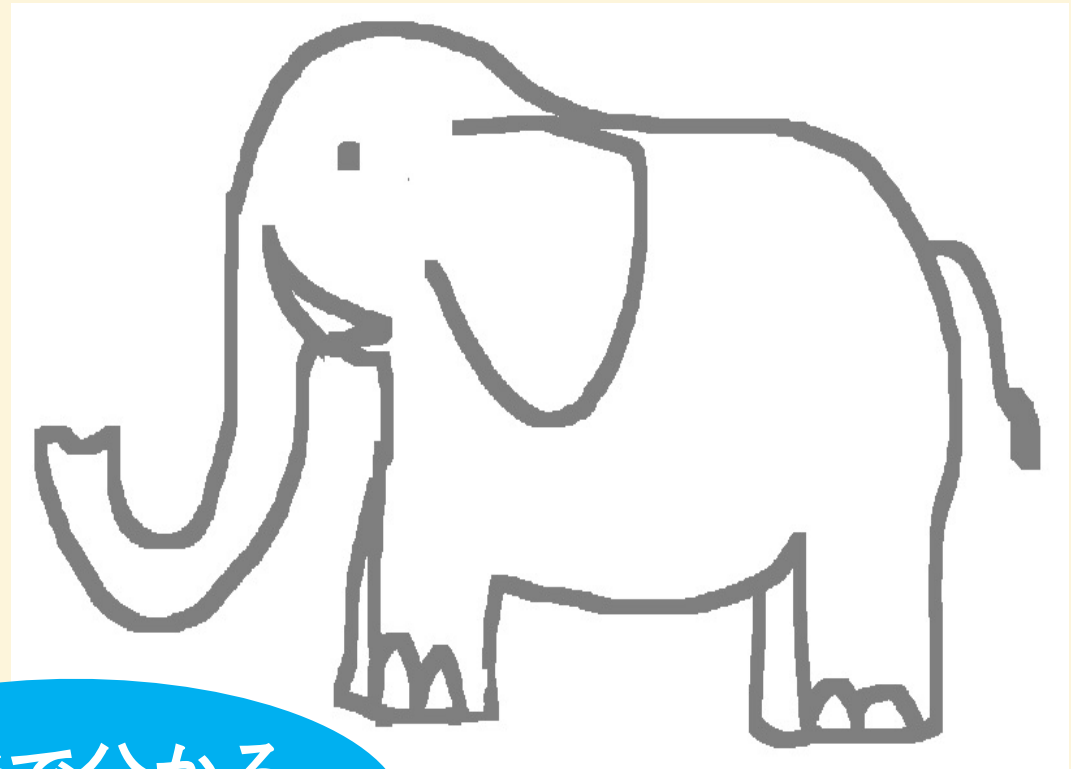
- シンガポールや韓国において、複数の教会で集団感染が発生!!
...大会堂での大勢の礼拝。大規模な伝道集会。伝道チームの海外派遣。
⇒大きな力を持っていた、従来の伝道、教会形成が、不可能に!!
- 一方で、ネットの動画メッセージ、ライブ配信の視聴が急増。
⇒問われるのは、発信するメッセージの中身!!
- ただ、集って、雰囲気で盛り上がる、というあり方では自ずと限界が!!
ネットを通して、変わらず伝えられることとは？
⇒正しい解釈に基づく聖書の解き明かし。不変の真理。
- 御言葉に堅く立ち、学びを深めていくなら、この時すら、追い風になる!!



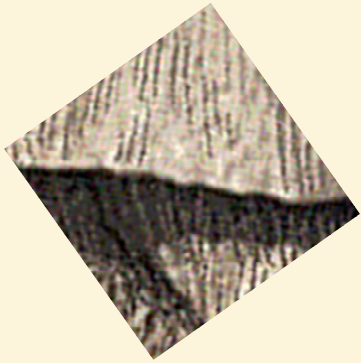
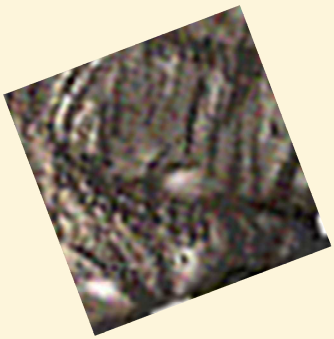
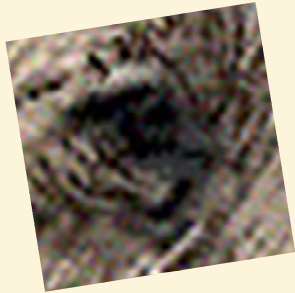
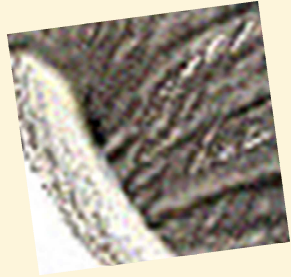
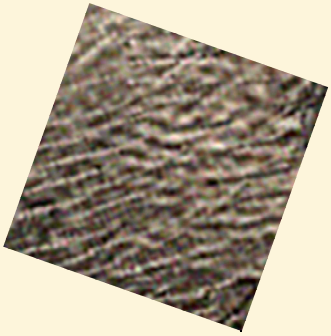
0. まえおき

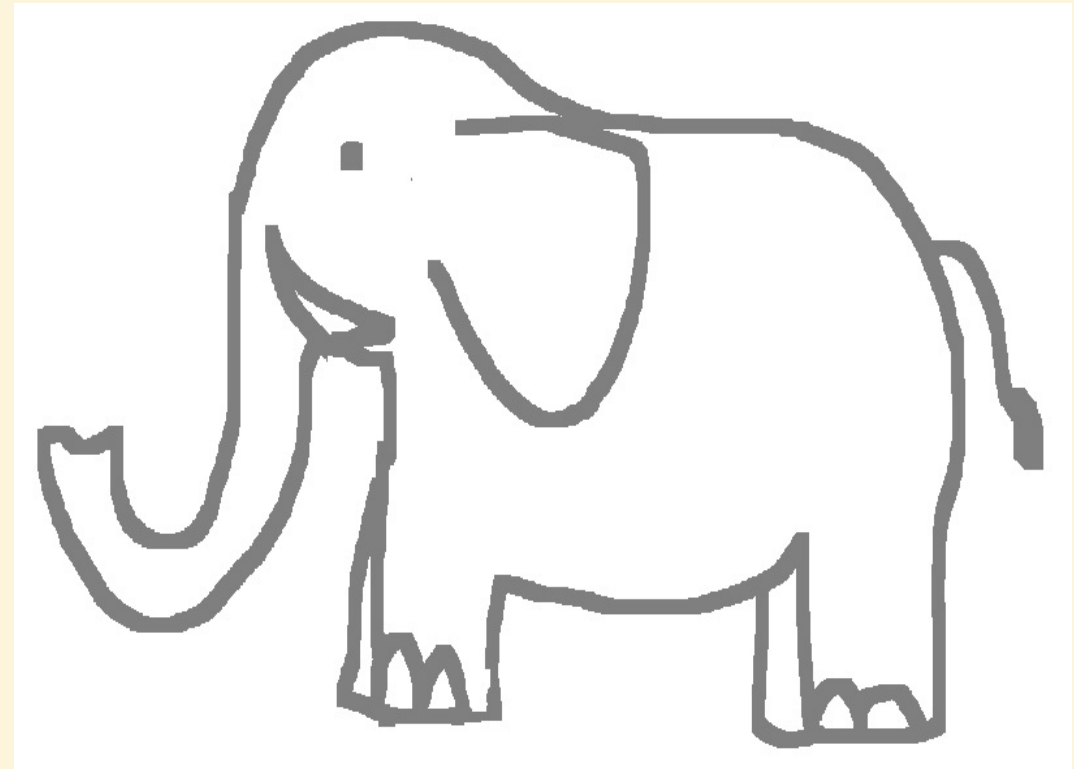
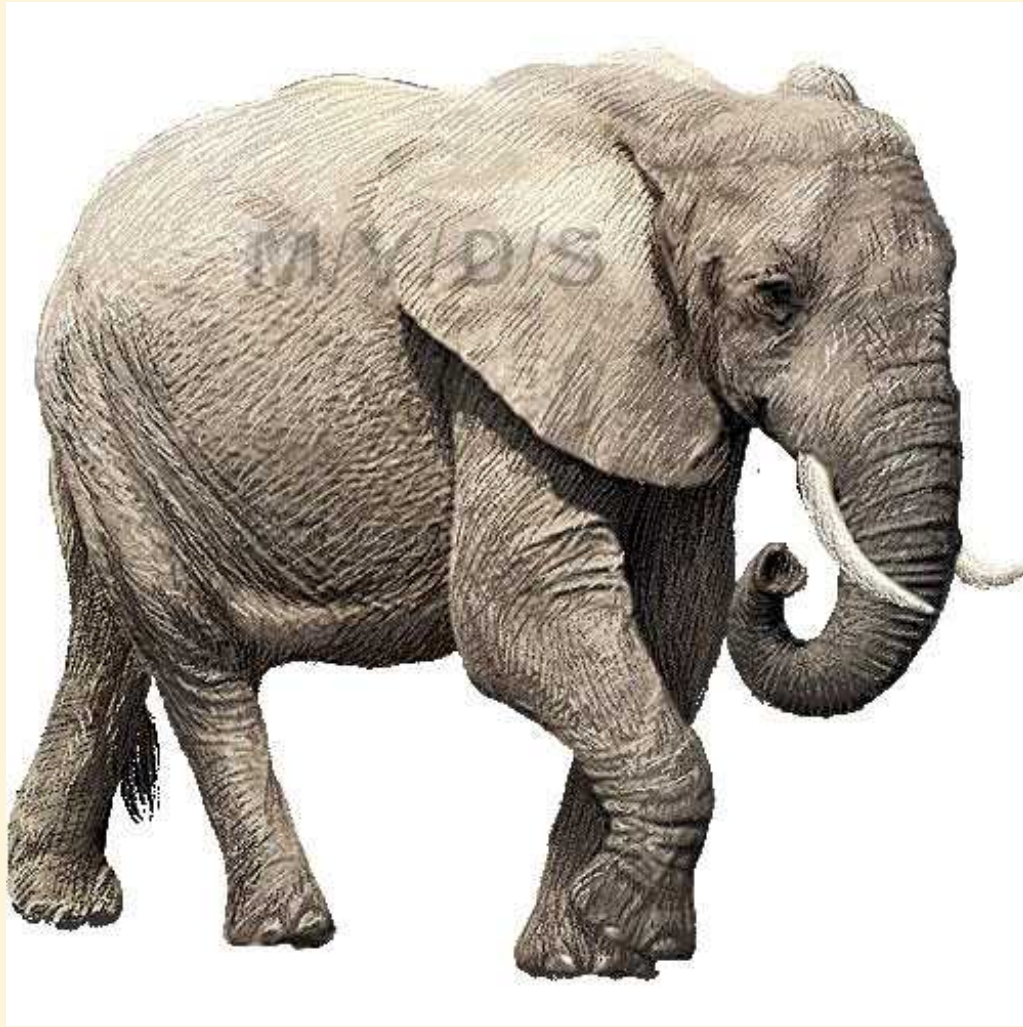
②この学びで目指すもの

これは何？



一発で分かるのはどっち？

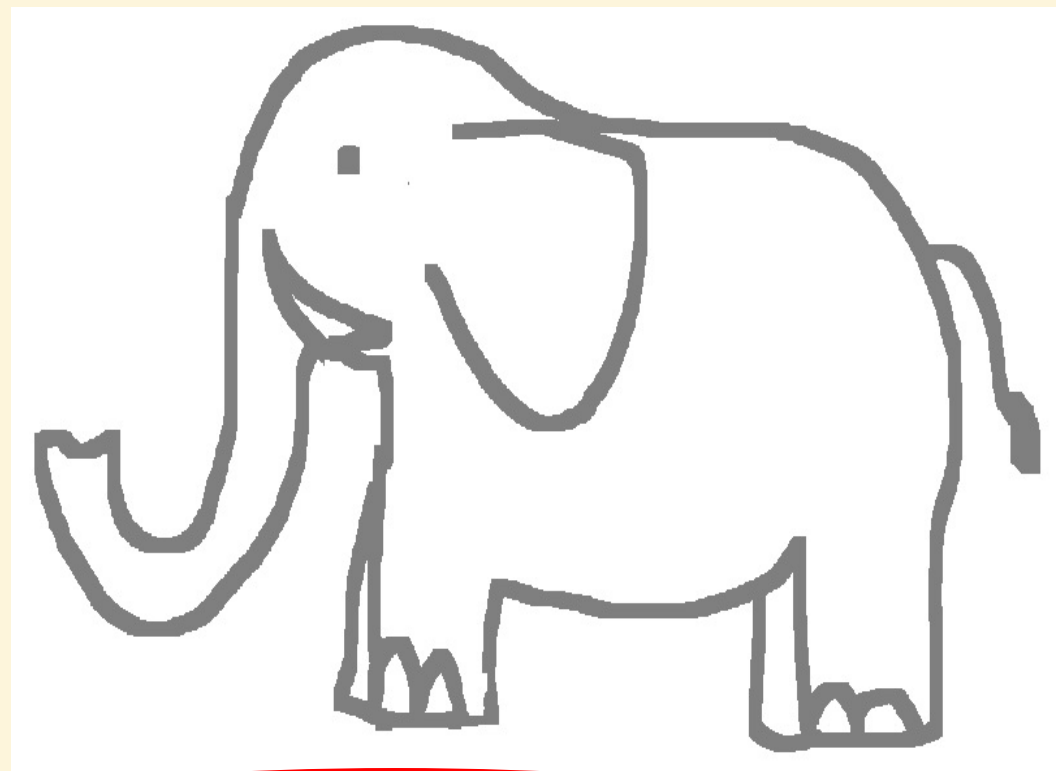




やたら詳しいけど、断片的



ざっくりだけど、全体的



わかりやすいのは、どっち？

【この学びで目指すもの】

- 下手でけっこう!! まずは、聖書の全体像をざっくり描けるように!!
- 骨格ができたなら、筋をつけ、肉をつけていこう!!
- もっと詳しく学びたい人は、こちらをどうぞ ↓

聖書塾も
ありますよ♪

中川健一師の
連続講解メッセージ

フルクテンバウム師の
聖書セミナー

メッセージ  ステーション

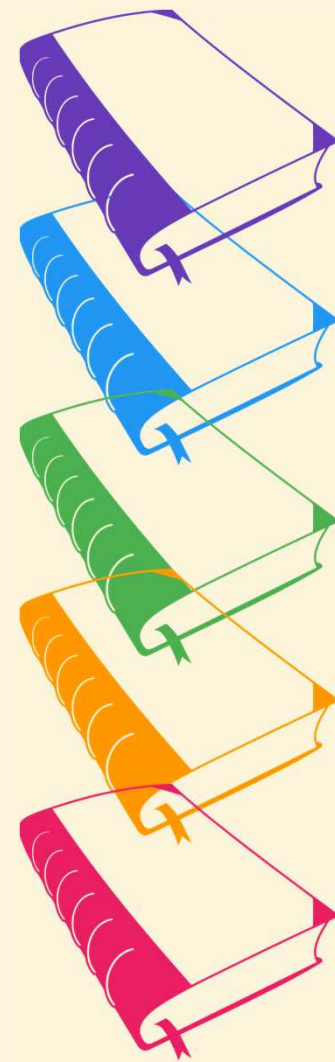
0. まえおき

③律法(トーラー)とは？



【モーセ5書(律法・トーラー)の内容】

- **創世記** (「エデン契約」「アダム契約」「ノア契約」「アブラハム契約」)
...天地創造から、アブラハム⇒イサク⇒ヤコブまで。
- **出エジプト記** (「シナイ契約」・十戒)
...モーセ誕生。エジプト脱出。律法授与。幕屋の完成。
- **レビ記** (三大祭)
...律法。主に祭儀と清めの条項。民の学びの期間。
- **民数記** (カデシュ・バルネア事件・放浪への分岐点)
...点呼、出発。民の過ちと神への反抗。40年の放浪へ。
- **申命記** (「土地の約束」・イスラエルの背教の予告)
...40年の荒野放浪後。新世代への信仰継承。
モーセの遺言。まとめ。



【律法の時代と教会の時代 ～幼子から成熟したクリスチャンへ～】

■ モーセ5書全体は、一つの文書。一つの「**律法(トーラー)**」。

⇒その中心に、「613の律法の条文」がある。

■ 律法の役割は、幼子のようなイスラエルの「養育係(ガラ3:24)」。

⇒律法に **従えば、祝福。背けば、呪い。**

⇒親のいいつけに **従えば、ご褒美。背けば、罰。**

とてもシンプル!!
小さな子と同じ!

■ しかし、今の時代の信仰者は、自立した大人としての成熟を求められる。

⇒主イエスに従えば、迫害される!! 信仰者も不条理な目にあう!!

■ 主イエスの約束は?

この時代の信仰者には、苦難があり、迫害がある。

しかし、主イエスが共におられ、福音宣教を助けてくださる、ということ。

幼子の信頼と
大人の成熟!!

I. イスラエルの苦難

出エジプト記1章



【まずは、いつものふりかえりから】

神は、
選びに応えたアブラハムを祝福され、
土地の授与と 子孫の繁栄を告げ、
その子孫から、全人類を救いに導く
メシアが誕生することを約束された。

この「アブラハム契約」は、
アブラハムから、イサク、
そして、ヤコブへと継承された。



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

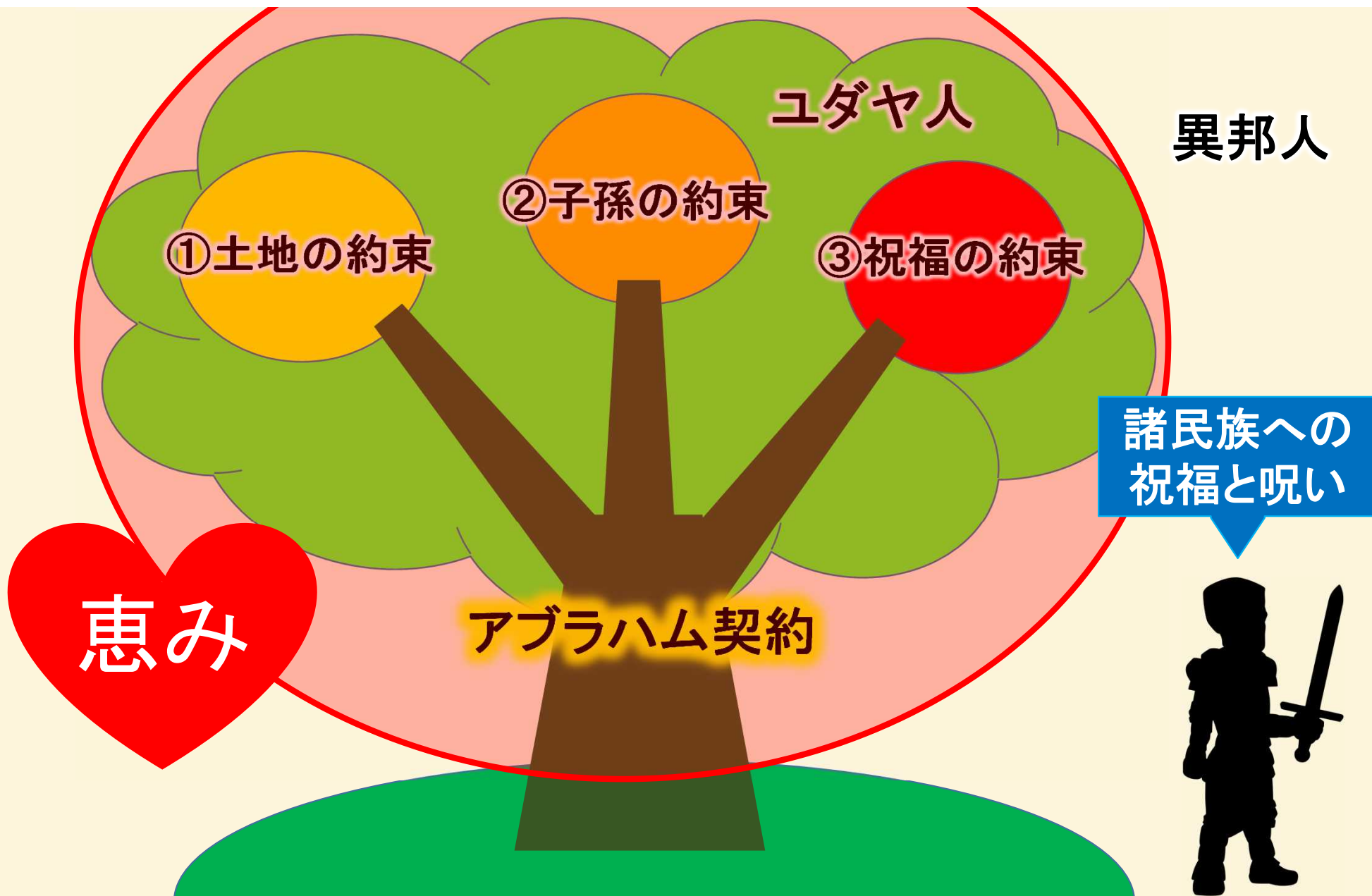
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

※しるし ...割礼

イスラエルのエジプトでの400年も、
アブラハム契約のゆえに守られた!!



【アブラハム契約】



【予告された400年の奴隷の苦難】 創15:13～14

「あなた(アブラハム)の子孫は、自分たちのものではない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。しかし、彼らの仕えるその国民を、わたしがさばき、その後、彼らは多くの財産を持って、そこから出て来るようになる。」

- およそ150年後、三代目のヤコブは、大飢饉を逃れて、エジプトへ移り住むことになる。
- 墮落したカナン文化から、隔離され、豊かなエジプトの地で、奴隷の苦難を経ながらも、イスラエルは増え、民族として成長していった。



★ イスラエルの歩み ★

【千年王国】

メシア再臨

エルサレム陥落 70

メシア初臨

【中間時代】

帰還・再建
前538

バビロン捕囚
前587

新しい契約

北イスラエル滅亡
前722

南北分裂
前950

ダビデ契約

【王国時代】

土地の契約

モーセ契約

出エジプト
前1290

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

エジプトへ

【族長時代】

アブラハム契約

【エジプトに移住したイスラエル】 出1:1~6

さて、ヤコブといっしょに、それぞれ自分の家族を連れて、エジプトへ行ったイスラエルの子たちの名は次のとおりである。ルベン、シメオン、レビ、ユダ。イッサカル、ゼブルンと、ベニヤミン。ダンとナフタリ。ガドとアシェル。ヤコブから生まれた者の総数は七十人であった。ヨセフはすでにエジプトにいた。

- エジプトに売られたヨセフは、エジプトの宰相となり、再開した兄たちと和解、父ヤコブと共に呼び寄せた。
- ヤコブの12人の息子から、イスラエル12部族が誕生。
- ヨセフ族が、長子権を継ぎ、ユダ族から、王家が出現し、メシアが生まれる。
- 後に祭司となるレビ族の末裔に、モーセが誕生する。

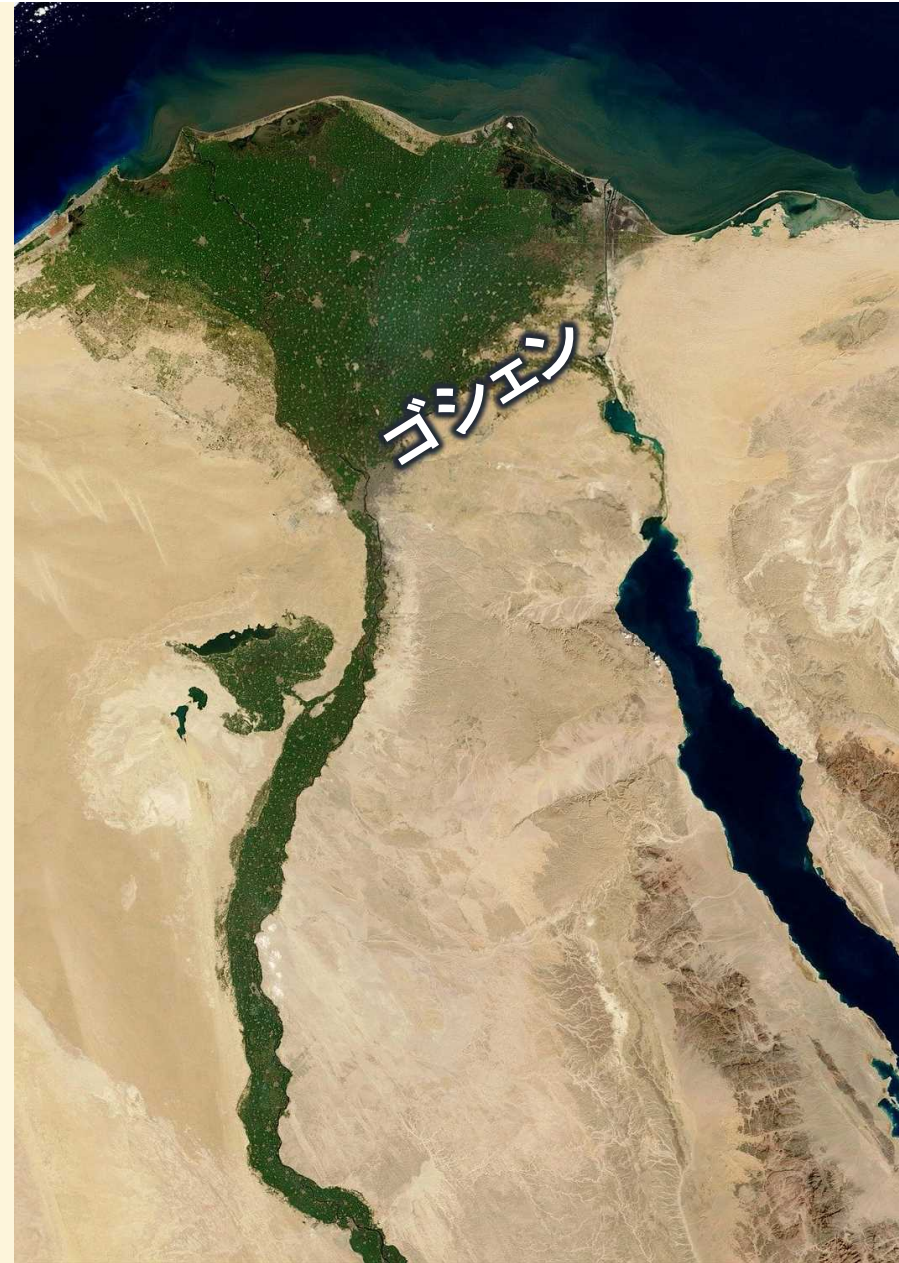


【後の世代へ】 出 1:6～7

そしてヨセフもその兄弟たちも、またその時代の人々もみな死んだ。

イスラエル人は多産だったので、おびただしくふえ、すこぶる強くなり、その地は彼らで満ちた。

- ヨセフの死体はミイラにされ、約束の地への帰還まで、400年の時を待ち続けていた。
- イスラエル人は、移り住んだ、豊かなゴシエンの地でも、牧畜を営み、栄えていった。
- エジプトでは、羊飼いは賤業だったため、イスラエルは、エジプトの文化に飲まれることなく、アイデンティティを保っていった。



【王朝の変遷】 出1:8～10

さて、ヨセフのことを知らない新しい王がエジプトに起こった。彼は民に言った。「見よ。イスラエルの民は、われわれよりも多く、また強い。

さあ、彼らを賢く取り扱おう。彼らが多くなり、いざ戦いというときに、敵側についてわれわれと戦い、この地から出て行くといけない*から。」

* “この国を取るかもしれない(新共同訳)”

■ イスラエルと同系のセム系のヒクソス王朝が滅び、エジプト本来のハム系の第18王朝が誕生した。

⇒ 第18王朝は、ヒクソス王朝を侵略者として記録。

■ エジプトを大飢饉から救ったヨセフの功績も忘れられ、イスラエルは、脅威として敵視されるように!!



【イスラエルの苦しみ】 出1:11~17

■ イスラエルは、奴隷とされ、苦役に伏した。
■ しかし、苦しめるほど、増え広がったので、エジプト人は恐れを抱き、さらに過酷な労働を課した。

■ パロ(エジプト王)は、ヘブル人(イスラエルの蔑称)の助産婦に命じた。

「ヘブル人の女に分娩させるとき、産み台の上を見て、もしも男の子なら、それを殺さなければならない。女の子なら、生かしておくのだ。」

■ パロは、男子を殺し、イスラエル民族を絶やそうとした。しかし、助産婦たちは、命令に従わなかった。



【パロの命令】 出1:11～12

- パロに問いただされて助産婦たちは答えた。「ヘブル人の女はエジプト人の女と違って活力があるので、助産婦が行く前に産んでしまうのです。」
- 神を恐れ、神に従った助産婦たちを、神は祝福し、栄えさせた。イスラエル人は、増え、力を得た。
- パロは、さらに厳しい命令を下した。「生まれた男の子はみな、ナイルに投げ込まなければならない。女の子はみな、生かしておかなければならない。」

こうしてイスラエルの400年が過ぎた。



今から400年前、
日本は、関ヶ原。
江戸時代前。

Ⅱ. モーセの誕生・前半生

～王宮から荒野へ～



出エジプト記2章

【モーセの誕生】 出 2:1～3

さて、レビの家のひとりの人がレビ人の娘をめぐらした。女はみごもって、男の子を産んだが、そのかわいい*のを見て、三か月の間その子を隠しておいた。しかしもう隠しきれなくなったので、パピルス製のかご*を手に入れ、それに瀝青と樹脂とを塗って、その子の中に入れ、ナイルの岸の葦の茂みの中に置いた。

* トーブ(美しい) ...その子の美しいの見た(ヘブ11:23)
⇒両親は、神の計画の現れを、その子に見た。

* かご(テイバー) = 箱船も同じ言葉。

■ 箱船のように、防水加工を施して、浮かべた。



【パロの娘】 出2:4～6

その子の姉が、その子がどうなるかを知ろうとして、遠く離れて立っていたとき、パロの娘が水浴びをしようとナイルに降りて来た。*彼女の侍女たちはナイルの川辺を歩いていた。彼女は葦の茂みにかごがあるのを見、はしためをやって、それを取って来させた。

それをあけると、子どもがいた。なんと、それは男の子で、泣いていた。彼女はその子をあわれに思い、「これはきっとヘブル人の子どもです」と言った。

* 神聖なナイル川での礼拝の沐浴。日々の宗教行事。

■ モーセの両親は、慈悲深い王女に子を託そうと考え、娘に見張らせていたのだろう。

(※王女 ...トウトモス1世の娘ハトシェプスト。)



【幼児期のモーセ】 出7～10

■ モーセの姉は、王女に、実母を乳母として紹介した。

■ モーセは、幼い頃は実の両親に育てられ、
やがて王女の子となった。

⇒イスラエル人としてのアイデンティティを保った。

■ モーセの名付け親は王女。

「水の中から、私がこの子を引き出した」

“マシャ(引き上げる)”から、モーセと!!

【反ユダヤ主義と、神を恐れる人々】

■ 王女は、事情をよく理解していただろう。

例)ナチスから、ユダヤ人を匿った多くの人々が!!

杉原千畝氏も、その一人。



【モーセの殺人】 出2:11～15

■ モーセは、王宮で、世界最高の教育を受けた。

■ ある時、同胞がエジプト人に打たれているのを見て、モーセは、相手を殺し、砂の中に隠した。

■ 翌日、同胞同士の争いを仲裁しようとする...

その男は、「だれがあなたを私たちのつかさやさばきつかさにしたのか。あなたはエジプト人を殺したように、私も殺そうと言うのか」と言った。そこでモーセは恐れて、きっとあのことが知れたのだと思った。

■ モーセは、パロに命を狙われる身となり、エジプトを逃れた。モーセ、40歳の時だった。





【エジプト】エジプト

【カナン】

ゴシェン■

【シナイ半島】

■ミデヤン

【ミデヤンへ逃れるモーセ】 出3章

▲シナイ山

【ミデヤンの地で】 出2:16～25

- モーセは、7人の娘たちを暴漢から助けた。
- 娘たちの父レウエルは、唯一の神を恐れるミデヤン人の祭司だった。モーセは、その娘チツポラと結婚した。
- モーセは、子どもに、ゲルシヨム(寄留者)と名づけた。

■ パロの代が変わっても、イスラエルの苦難は続いた。
「2:23～25 彼らの労役の叫びは神に届いた。神は彼らの嘆きを聞かれ、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた。神はイスラエル人をご覧になった。神はみこころを留められた。」

見よ。イスラエルを守る方は、まどろむこともなく、眠ることもない。 詩編121:4



0～40歳

奴隸の子として誕生

王の子として成長

逃亡者に
40才

ミディアン人の娘チツポラと結婚

40～80歳

荒野での羊飼生活

召命
80才
出エジプト

80～120年

モーセ契約

民の反抗

荒野の四〇年

土地の契約

召天

【モーセの生涯】

Ⅲ. モーセの召命

出エジプト記3章



ホレブ山脈・この内のどれかがシナイ山

【ホレブにて】 出3:1~3

モーセは、ミデヤンの祭司で彼のしゅうと、イテロ(レウエル)の羊を飼っていた。彼はその群れを荒野の西側に追って行き、神の山ホレブ*にやって来た。

すると【主】の使い*が彼に、現れた。柴の中の火の炎の中であった。よく見ると、火で燃えていたのに柴は焼け尽きなかった。

モーセは言った。「なぜ柴が燃えていかないのか、あちらへ行ってこの大いなる光景を見ることにしよう。」

* ホレブ山脈 ...シナイ山は、その一つ。

* 主の使い ...第二位格の神、受肉前のキリスト。

■ 燃えても燃え尽きない柴は、イスラエルの象徴。

■ 80歳の羊飼いのモーセに、

主は、ご自身の栄光の内から語りかけられる。



【主の呼びかけ】 出 3:4~6

【主】は彼が横切って見に来るのをご覧になった。神は柴の中から彼を呼び、「モーセ、モーセ*」と仰せられた。彼は「はい。ここにおります」と答えた。

神は仰せられた。「ここに近づいてはいけない。あなたの足のくつを脱げ。あなたの立っている場所は、聖なる地である。」

また仰せられた。「わたしは、あなたの父の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」モーセは神を仰ぎ見ることを恐れて、顔を隠した。

- * 神の愛情に満ちた、重要な使命を伴う呼びかけ。
- * 契約を結ばれたイスラエルの神のフルネーム。
- 主の前で、人は誰しも、自分の罪を痛感させられ、きよい神に、恐れを抱く。



【動き出す神の時】 出 3:7～10

【主】は仰せられた。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の悩みを確かに見、追い使う者の前の彼らの叫びを聞いた。わたしは彼らの痛みを知っている。

わたしが下って来たのは、彼らをエジプトの手から救い出し、その地から、広い良い地、乳と蜜の流れる地、カナン人、ヘテ人、エモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人のいる所に、彼らを上らせるためだ。

見よ。今こそ、イスラエル人の叫びはわたしに届いた。わたしはまた、エジプトが彼らをしいたげているそのしいたげを見た。今、行け。わたしはあなたをパロのもとに遣わそう。わたしの民イスラエル人をエジプトから連れ出せ。」

今、動き出す、アブラハムへの神の約束



【神のしるし】 出 3:11～12

モーセは神に申し上げた。「私はいったい何者なのでしょう。パロのもとに行ってイスラエル人をエジプトから連れ出さなければならないとは。」

神は仰せられた。「わたしはあなたとともにいる*。これがあなたのためのしるしである*。わたしがあなたを遣わすのだ。あなたが民をエジプトから導き出すとき、あなたがたは、この山で、神に仕えなければならない。」

■ 80歳のしがない羊飼いの自分に何ができるのか？

* イエスの名は、“インマヌエル(神が共におられる)”

* これから起きることが、しるしとなる!!

■ 神の目には、将来の約束も、すでに果たされたこと。



【名乗られる神】 出 3:13～14

モーセは神に申し上げた。「今、私はイスラエル人のところに行きます。私が彼らに『あなたがたの父祖の神が、私をあなたがたのもとに遣わされました』と言えば、彼らは、『その名は何ですか』と私に聞くでしょう。私は、何と答えたらよいのでしょうか。」

神はモーセに仰せられた。「わたしは、『わたしはある』という者である。」また仰せられた。「あなたはイスラエル人にこう告げなければならない。『わたしはあるという方が、私をあなたがたのところに遣わされた』と。」

- 名は、本質を示す。知識以上のものを求めたモーセ。
- 『わたしはある』という神は、あらゆる存在の根源。
何にもよらず、始まりも終わりもない、唯一無二の方。



יהוה

【聖なる神の御名】 出 3:15～16

神はさらにモーセに仰せられた。「イスラエル人に言え。あなたがたの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、【主(ヤハウエ)】が、私をあなたがたのところに遣わされた、と言え。これが永遠にわたしの名、これが代々にわたってわたしの呼び名である。行って、イスラエルの長老たちを集めて、彼らに言え。あなたがたの父祖の神、アブラハム、イサク、ヤコブの神、【主】が、私に現れて仰せられた。『わたしはあなたがたのこと、またエジプトであなたがたがどういうしうちを受けているかを確かに心に留めた。』

- モーセに求められたのは、神の聖なる御名の宣言。
アブラハムへの神の約束が、成就されるということ。



【告げられる使命】 出 3:17～18

それで、わたしはあなたがたをエジプトでの悩みから救い出し、カナン人、ヘテ人、エモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の地、乳と蜜の流れる地へ上らせると言ったのである。』

彼らはあなたの声に聞き従おう。あなたはイスラエルの長老たちといっしょにエジプトの王のところに行き、彼に『ヘブル人の神、【主】が私たちとお会いになりました。どうか今、私たちに荒野へ三日の道のりの旅をさせ、私たちの神、【主】にいけにえをささげさせてください』と言え。

■ パロへ告げる内容まで、詳細に告げられる神。



【啓示された神のシナリオ】 出 3:19～22

しかし、エジプトの王は強いられなければ、あなたがたを行かせないのを、わたしはよく知っている。わたしはこの手を伸ばし、エジプトのただ中で行うあらゆる不思議で、エジプトを打とう。こうしたあとで、彼はあなたがたを去らせよう。わたしは、エジプトがこの民に好意を持つようにする。あなたがたは出て行くとき、何も持たずに出て行ってはならない。女はみな、隣の女、自分の家に宿っている女に銀の飾り、金の飾り、それに着物を求め、あなたがたはそれを自分の息子や娘の身に着けなければならない。あなたがたは、エジプトからはぎ取らなければならない。」

■これから起きる、エジプト脱出の4～14章の出来事をあらかじめ、主はモーセに告げられていた。

神の言葉を
身をもって
モーセは
知っていく





IV. まとめと適用

主の御名を味わい知ろう
モーセの使命、私たちの使命

【モーセに証された神の御名とは？】

- 【主】・ヤハウエ ...この名自体は、創世記にも165回出てくる。
モーセが知らされたのは、この名の意味する本質。
⇒“わたしはある” “我は有りて在る者なり(文語訳)”

■モーセに啓示された神の本質とは？

- ①自立自存 ...何にもよらず、始めから存在されている永遠の方。
- ②自足している ...全く欠けはない。完全な愛の関係性をも。
- ③すべてを包含する神 ...すべては神の御手の内にある。
- ④いかなる限界もない神 ...神の約束は絶対に果たされる。

■主イエスの神性宣言

“アブラハムの生まれる前から、わたしはある。ヨハネ8:58”

【モーセの半生と神の召命】

- モーセの名の通り、死の淵から拾い上げられ(モーシャ-)、40年を王宮で過ごし、当時の最高の教育を受け、40年を荒野で、羊飼いとして過ごした。
⇒この知識と経験が、荒野でモーセの助けとなる。
- 子にゲルシヨム(寄留者)と名付けた、80歳の放浪者モーセ。
“わたしは一体何者でしょうか”
⇒なにもないモーセを、神は、ご自身の器として選び出された。
- 神の前には、人間など、誰もが無に等しい。
自分の無力さを自覚させられた者こそ、主に用いやすい器となる。

【モーセの使命、私たちの使命】

- たじろぐモーセに、主は名を明かし、これからの出来事を約束された。
- モーセの使命は、まるで子どもの“はじめてのおつかい。”
伝える内容まで、事細かく指示されて、あとはその通りにするだけ。
その通りにすれば、必ずできるように、筋書きができています。
- 今の時代の私たちの使命は、福音を告げ、聖書を解き明かすこと。
“主イエスは、あなたの罪のために十字架にかけられ、
死んで葬られ、復活された。主は、今も生きておられる”と。
- 後は、主ご自身が、ことをなして下さる。
救われるべきすべての魂を、主が救いに導いて下さる。
- すべては神の内にある。私たちの手には何もなくてもいい。

【モーセのしるし、私たちのしるし】

■ モーセに与えられた、しるしとは？

イスラエルがエジプトを脱出し、シナイ山で神を礼拝すること。

■ 私たちに与えられた、しるしとは？

救われるべきすべての魂が、福音を信じること。

信じたすべての者が、神の国で主を礼拝する時が来ること。

■ 神の最大のしるしは、歴史を通して実現される。

疫病も、世の終わりにつながる、今の時代の一つのしるし。

主は、信じる者を挙げられる。世界は裁かれ、回復される。

すべてのしるしは、実現されてきた。これからも実現されていく。

■ 主を信頼して、今を歩もう。福音を告げ、聖書を解き明かしていこう。

主は、必ず、王の王として、この地に戻ってこられる。

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

イスラエルの400年も、モーセの80年も、主(しゅ)が守(まも)られました。

すべてのことは、神から発(はっ)し、神によってなり、神にいたりします。

主への信頼(しんらい)を持(も)って、わたしたちを、

それぞれの使命(しめい)に、今ここから、つかわしてください。

主(しゅ)イエス・キリストの 御名(みな)によって 祈ります。

アーメン」